

助け合いの中で生きて行く

深瀬 和文

秋も深まり、冬の足音が一步一步近づいてくる季節がやって来ました。皆様におかれましては、季節の変わり目ですので、お身体に気をつけてお過ごしください。

さて、早いもので東日本大震災から8カ月が経とうとしています。今回の震災では色々な経験をし、また色々な問題点が浮き彫りになりました。と言うのも先日の支部代表者会議において、全国で非常電源確保の問題が1つの議題にあがりました。特に人工呼吸器を付けている人の、震災の時の電源確保が難しいという事でした。家に電気が来なく、2日間アンビューバックを押し続けていたと言う報告もあり、震災直後、自分自身を守りながら、尚且つ最低でも72時間の非常電源確保が必要と発言がありました。もし北海道でも同じ様な震災が起きた場合の事を、自分の知り合いで人工呼吸器を付けている人に聞いたところ、電源確保に不安を抱いているという答えがいっぱいあがりました。そのように思っている患者さんがいる事を難病連に報告したところ、難病連でも非常電源の件については問題視しており、先日、難病連の方と松田事務局長と一緒に道庁の職員の方に相談する場を設けていただきました。その際、前向きな回答をいただきましたが、予算や色々な問題があるようで、すぐには対応できないようですが、今後も粘り強く交渉していきたいと思っています。

私事ですが、今回、気管切開をして人工呼吸器を着けることになりました。ですが、呼吸器を付けた後も北海道ALS協会支部長として頑張っていきたいと思っておりますので、役員ならびに会員の皆様どうぞ宜しくお願いします。

前文にも書いた今回の震災の被災地である岩手・宮城・福島の方が、全国支部代表者会議にとっても元気に参加されておりました。なぜなら、ALS協会や色々なところから義援金や沢山の物資を受け取り、人間の心の温かさを感じたからだと思います。患者会においても、患者さんや家族が悩みを相談することで、人の温かさに触れると言う場面がよくあるように、私はどんな小さな悩みでも一人で悩まずに、他人(ひと)に相談した方が良いと思います。その延長線上で北海道ALS協会がお役にたてればと、深く願っています。